

シリーズ

家庭看護のコツ

その4 寝床で便器を当てるとき 腰を上げてもらいましょう。

寝たきりになると、どんどん体力が落ちてきます。便器が入る高さまで腰を上げる練習をしておくと、介護者も随分楽ですよ。

便器を使うテクニック

- ①女性の場合は尿が飛ばないよう、ちり紙を当てます。
- ②便器の中に紙を敷くと、後の始末が楽です。



相談は……

保健婦人センター ☎64-8992



高木八恵子
看護婦
☎64-8990

小学校入学前までは、予防接種がメジロ押し。「受けるときには、こんなことに注意して」と、保健婦人センターの看護婦高木八恵子さんがお知らせします。

「健康カレンダーを、大切に保管されていますか。小さいお子さんはお知らせします。それと、母子手帳は忘れずお持

いね」

小学校へ入学してからも、継続する接種があります。基礎免疫は、



こんなことに注意して

あなたの生活便利メモ ⑬

予防接種

機織りといつたら、「ツルの恩返し」の昔話を思い出す人も多いと思います。

機織り機は、縦糸を渡し、それに横糸を通して織物をつくる機械のことです幅80cm、長さは150mあります。



江尾の、鈴木初江さんのお宅から、機織り機を寄贈していただきました。ご主人将司さんのおばあさんが、「ジュニオサ」と呼んでいたもので、百年くらい前、建具屋さんにつくつてもらつたものだそうです。

機織り機



鈴木初江さん
(江尾)

「織るだけじゃあ、あまんじやくでもできる」と、初江さんは笑います。織るのは、簡単だという意味だそうで、四十年前までは、この機織り機を使って初江さんも反物を織っていました。「一反織るのに、大体二、三日。ヘダイで丈をこしらえて、オサヘ通して、この方が手間取ったねえ。木綿の糸は売りに来たから、黒と白の糸だけで、二本筋や三本筋のしま模様を織つてね。子良着をこしらえて持たしてやつたさ。子供が生まれてからは、忙しくて織つてないね」この機織り機には、小さなくぼみがあります。昔、夜なべ仕事でろうそくを立てておばあさんが織つていたころ、ろうそくの炎で焼いてしまった跡だということです。

勝さんは、古びた色彩の建物や風景画を、気持ちの落ちつく夜描くのに對して、清子さんは、明るい色の花や静物画を、家事の合間にチョコチョコと。

こうしてかきためた作品40点をよりすぐって、7月14日から「夫婦展」を開きます。会場は、新富士駅のギャラリー。

「かき終わるとほっとするんですが、後悔もあったりで——。でもこれが、次に向かって挑戦する気持ちになれるんです」



遊々タイム

.....⑫

【日本画】

広見町の草間勝さんと清子さんは、日本画に陶芸、墨絵に人形づくりと、玄人はだしの趣味を持つご夫婦。

共通の趣味は、日本画。でも、ちょっと歩き方は違います。

こちら編集室

「遊々タイム」で、草間さんのお宅へ伺ったときのこと。

清子さんの、すすめてくださるお茶にお菓子、それに、勝さんの含蓄のあるお話しに聞きほれて、

正座すること45分。アトリエで写真を、という段になつたら足がしひれて動けない。格好つけて立ち上がったのだけれど座敷にドテン。とんだ、お笑いエヘヘヘッ。